

国立病院機構熊本医療センター

No.207



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 第37回

# 開放型病院連絡会開催が迫りました

平成26年度第1回（通算37回）国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、来る9月10日（水）午後7時より、くまもと県民交流館（鶴屋東会館）にて開催致します。

連絡会総会は、10階パレアホールを会場にて、症例の呈示、地域医療連携室からのお知らせを行い、その後会場を7階鶴屋ホールに移し意見交換会を予定して

います。

先生方をはじめ、看護部門、メディカルスタッフ部門、MSW、事務職員など多くの皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。なお、新規登録医の受付も当日、会場でできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付けください。

（管理課長 清水 就人）

## 第37回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日時：平成26年9月10日（水）午後7時～午後9時

会場：くまもと県民交流館（鶴屋東館）

内容：開放型病院連絡会総会（10階 パレアホール）

### 1. 症例の呈示

「前立腺がんの密封小線源療法（ブラキセラピー）の導入」

泌尿器科部長

菊川 浩明

### 2. 地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室長、統括診療部長

清川 哲志

### 意見交換会

（7階 鶴屋ホール）

### 【連絡先】

国立病院機構熊本医療センター管理課（清水、富田）

〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5 電話 096-353-6501 内線5690

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



## 「7年目の夏を迎えて」

### メディカルスクエア九品寺クリニック

院長 横山 利美

熊本市九品寺の白山通りと浜線バイパス交差点近くに、内科・消化器内科・放射線科の有床診療所を開設し、はや6年が過ぎました。以後、熊大附属病院消化器内科や画像診断治療科、熊本放射線外科などの医療機関と連携しながら、肝臓癌の治療や、甲状腺癌・肺癌などの放射線治療や専門医療治療中の入院などを行なっています。また、特別養護老人ホームの配置医や訪問診療も行なっていて、現在は、消化器内科、循環器内科、放射線科の同級生や後輩に助けをもらいながら、日々診療を行なっている状況

です。

配置医となっている特養も、入所者がさらに高齢化し、体調不良となる方が増加してきていて、特に、嚥下障害の程度が進行して、なんとか経口摂取できていた方が誤嚥性肺炎を繰り返すようになり、また、肺炎も重症化するようになって、当院で対応できず、救急病院などに御願ひする頻度が増してきています。施設に近い専門病院が熊本医療センターということもあって、いつもいつも熊本医療センターの先生方に、大変お世話になっております。高齢で認知症や身体機能低下もあり、対応が難しい方を、いつも快く対応いただき、施設職員を含め大変感謝いたしております。

施設や当院にも、嚥下困難な方が多数おられますが、“経口摂取困難だから経管栄養しないと施設入所は継続できず、医療機関への入院や在宅療養は不可能だけど、経管栄養を行なうまでは…”、といった、いわゆる行き場のない方々が増えるなか、当院でもできる限りの医療・介護を行なおうと思っています。

今後も、熊本医療センターをはじめ様々な医療機関に、病診連携をたびたび御願ひすることと思ひます。今後ともどうぞよろしく御願ひ致します。

## 紹介予約センター開設のご案内

この度、一般外来におけるご紹介の予約受付を便利に、また、待ち時間を短縮するための紹介予約センターを開設致しました。翌日以降の受診についてお電話でのご予約が可能です。緊急受診を要せず翌日以降の受診で良い場合、また、受診希望の診療科との特別な調整を要しない場合には、センターご利用のうえ翌日以降のご予約をお願い申し上げます。また、緊急その他の場合については、従来通り地域医療連携室までご連絡ください。

(旧)

FAX予約

地域医療連携室		
翌日以降の受診	当日の受診	その他の受診

(新)

電話予約



FAX予約

紹介予約センター	地域医療連携室
翌日以降の受診	当日 その他の受診

### ①まずはお電話を専用096-353-6565 or 6566へ

予約日時をその場でお伝えします。(仮予約)

- 1) 電話受付時間は月～金 8:30～15:00
- 2) 以下の項目をお教え下さい。
  - ・患者様の氏名、生年月日、電話番号
  - ・お持ちの方は当院のID番号
  - ・ご希望の診療科、診察医師名、受診日時

### ②当日中にFAXを専用096-353-6563へ

予約申込書をご送信下さい。先の項目を確認します。  
(本予約)

【お問い合わせ先】

紹介予約センター 096-353-6565 or 6566

(従来通りです。)

### ○ FAXを096-323-7601へ

予約申込書をご送信下さい。

- 1) FAX受付時間は月～金 8:15～17:15
- 2) 当日受診(緊急、準緊急、その他)
- 3) 胃瘻・シャント造設のご相談等
- 4) MRI/CT予約、歯科・歯科ご相談等
- 5) 予約センターの受付時間外(15:00～)

【お問い合わせ先】

地域医療連携室 096-353-6501 (内2360)

# 病棟紹介

## 救命救急センター



救命救急センタースタッフ

救命救急センターでは、救急車やヘリコプターによる搬送患者、他院からの重症の紹介患者に対する集中治療を行っています。災害発生時には、2倍の患者数受け入れを可能とする医療ガス設備と広々としたフロアに44床を有しています。全診療科の救急患者の受け入れを行っており、特に脳卒中、重症肺炎などによる呼吸不全患者や外傷患者が多く、敗血症、腎不全、心不全、薬物中毒、腹部外科など緊急手術を必要とする患者様の受け入れも行っています。看護師は、看護師長、副看護師長を含め106名が在籍し、救急看護認定看護師（2名）を中心にスタッフ教育にも力を入れ取り組んでいます。平均在院日数5～6日で、それ以降の治療・処置は後方の一般病棟へ引き継ぎ、常に多くの診療科の医師と協力し、患者様、ご家族の立場に立った関わりを大切に日々の看護を提供しています。

(救命救急センター師長 穎川 俊也)

スタッフステーション



救命救急センター病床



救急外来  
初療室



患者家族控室



**2014**  
**診療科紹介 (74)**  
**総合診療科**



統括診療部長、地域医療連携室長  
外来化学療法センター長

**清川 哲志** (きよかわ てつゆき)

血液内科、造血幹細胞移植、総合内科、医学教育、膠原病、化学療法

日本内科学会指導医  
外国人医師臨床修練指導医  
熊本大学医学部臨床教授



医長

**吉見 昭一郎** (よしみ しょういちろう)

総合診療、老年医療



医長

**原田 奈穂子** (はらだ なおこ)

血液内科、造血幹細胞移植、内科一般、膠原病

日本内科学会指導医・認定医  
日本血液学会専門医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



医長

**井上 佳子** (いのうえ よしこ)

血液内科、造血幹細胞移植、内科一般、膠原病

日本内科学会指導医・認定医  
日本血液学会専門医



医師

**坂梨 綾** (さかなし あや)

腎臓内科 (血尿・蛋白尿・腎炎・ネフローゼ・腎不全・慢性腎臓病 (CKD)・血液浄化・シャント管理・腹膜透析)

日本内科学会内科認定医

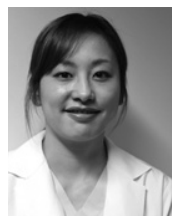


医師

**吉田 庸子** (よしだ ようこ)

精神神経一般、リエゾン精神医学診療内科、緩和ケア

日本医師会認定医産業医  
日本内科学会認定医



医師

**坂本 和香奈** (さかもと わかな)

内分泌・代謝、糖尿病

受け、専門医と相談しながら出来るだけ早く診断を行うことを目指しております。ご紹介よろしくお願ひ申し上げます。

**診療実績**

毎月第3月曜日午後7時より、当院研修センターホールにて、公開の内科合同症例カンファレンスを行っております。診断が困難であった症例などの検討とともに、最新の治療や考え方を各専門医から解説してもらいます。自分の専門分野以外の医療知識をブラッシュアップして、実際の診療に生かして下さい。内容につきましては毎回「くまびょうNEWS」に掲載しております。どうぞお気軽にご参加下さい。

**診療内容と特色**

専門医療の高度化が進んでいますが、高齢化に伴い診療科が特定できない患者さんの訴えが多くなっています。専門にとらわれることなく総合的な見地から診断と治療を行って参ります。対象となる主な症状として、不明熱、全身倦怠、原因不明の体重減少、部位のはっきりしない痛みなどがあります。患者さんを引き

**新任職員紹介**



眼科医師

えいき だいすけ  
**榮木 大輔**

こんにちは。今年8月より熊本医療センターで勤務することになりました榮木と申します。故あってこの

ような中途半端な時期からの勤務ですが、意気込みは半端ではございません。患者様の為にも、先日我が家の一員に加わった可愛い息子の為にも精一杯努めようと思っております。先日まで大学病院で専門外来を担当しておりましたので、その経験を生かしつつ幅広い患者様の疾患・ニーズにお応えできるよう日々の診療に邁進していきたいと思ひます。久々に大学病院以外での勤務となり若干の不安はありますが、諸先輩方のお力も借りながら精一杯頑張りたいと思ひます。これから宜しくお願ひ致します。

# 熊病の歴史

## 一日亭

江戸時代、現在の附属看護学校があるところは、細川藩の家老松井家の下屋敷があったところです。当時、その場所は回りより一段高くなっているため、北西方向から南東に至るまで眺望が開け、たいそう眺めのいいところでした。そこで、松井家の別邸としてその眺めを楽しむ瀟洒な2階建の家屋が作られました。この建物は一日亭（いちじつてい）と呼ばれ、まわりには松を配した立派な庭作りがなされていました。今の院内のローソンの傍にある灯籠などもこの庭にあったと思われ（一日亭につきましても、その写真と絵図が残っていますので、実際に確認することができます。灯籠なども絵図中に描かれています）。この建物の豪華さは世に聞こえていたらしく、熊本城が軍用地になり明治4年に一日亭が撤去された後も数奇な運命をたどり、明治4年（1871）の廃藩置県後、一日亭は、長崎生まれの緑屋栄造という人が、これを買って京町本丁（新堀町）に移し、翁屋（おきなや）という名前の料理屋を営みました。その後、三浦栄次という人（緑屋栄造と同一人物？）が、坪井立町に移し、一日亭と昔の名前をつけ多くの芸子を抱えて遊郭を営業しました。しかし、残念ながら、明治10年の西南戦争で焼失しました。

一日亭は、戦後、すぐにまた同地で新築され営業を再開しましたが、明治13年遊郭が二本木に移された時に、一日亭も二本木に移りました。一日亭は、有名な遊郭、東雲楼（しのめろう）と比較されるほど大きく、明治42年刊行の“熊本の遊びどころ”には「熊本の地、旗亭多けれども、最も古くして、最も大なるも

のは、二本木遊郭内の一日亭本店と為す。」と記されています。

三浦栄次の後を継いだ、養女で女将の三浦ジンは男勝りで侠気があり、当時有名な女将でした。彼女は、支那革命に奔走した宮崎滔天を密かにかくまったり、滔天からの借金の依頼にお金を送ったりしています。

三浦ジン（1877～1948）は伊予松山、堀江（今の松山市）の忽那家に生まれました。10歳の時、親類である熊本の三浦家養女となり、一日亭の娘として育ち、一生を独身で過ごしました。この三浦ジンをモデルに、二本木を舞台にした映画が、五社英夫監督、樋口可南子主演の「陽炎」です。熊本大学医学部解剖学教授で、熊杏会の会長も務められた故忽那将愛氏は、三浦ジンの甥にあたります。なお、一日亭はジンの死後取り壊されました。ジンは、二本木、常通寺の三浦家の墓に眠っています。

（以上の内容は、参考文献によりましたが、いずれも正確な検証はなされておりませんので一部不正確な記述もあるかもしれません。ご容赦ください。）

### 参考文献：

- 1) 井上智重；滔天が頼った「一日亭」の女傑 三浦じん 異風者伝 熊本日日新聞社 2012 P234-238
- 2) 富田紘一：「熊本城の歴史と探訪」第28回 二の丸（9）古城・桜馬場（1）熊本城 復刊第90号 2013 P4-5

院長 河野 文夫



一日亭春秋真景図屏風（秋景）—松井文庫蔵—

# ゴハリー教授の講演会が開催されました

河野院長の長年の友人で、エジプト・スエズ運河大学副学長、ファイユーム大学学長を歴任されたアハメド・エル・ゴハリー教授が、本年7月1日付でエジプト日本科学技術大学（E-JUST）の第2代学長に就任されました（54名の候補者の中から選出）。そして今回、日本国際協力機構（JICA）の招聘プログラムで来日され、東京工業大学、早稲田大学、京都大学、九州大学という主な連携施設を訪問した最後に、8月8日熊本医療センターに来院されました。

ゴハリー教授は、当院名誉院長である蟻田 功先生が始められた発展途上国向け研修に参加した（1992年）ことがきっかけとなり、その後JICAのサポート（河野文夫院長を専門家として派遣）を得て、エジプトでアフリカ諸国向けの研修を次々に立ち上げ（1996年より）、大きな成果を挙げました。そして今回、アラブの春による政権交代などの苦難を乗り越え、再出発さ



ゴハリー教授講演の様子

れたわけです。JICA関係者、熊本大学医学部留学生とともに、院内を回った後、午後6時より当院の地域医療研修センターホールにて「国際医療協力への関わりを通して」と題したE-JUST学長就任記念講演に臨まれました。蟻田 功名名誉院長によるスピーチから始まり、座長を河野文夫院長が務められて、講演ではゴハリー教授のこれまでの歩みとこれからのビジョンが語られました。講演後の立食パーティーには崎元達郎前熊本大学学長や岡田誠治熊本大学教授も出席され、和やかな中実りのある親睦を深めることができました。台風11号が迫る中でしたが、翌日無事に帰国の途に就かれたそうです。これからも日本とエジプトとのつながりからアジアとアフリカとの懸け橋としての役割を果たすべく、平和な世界と友好関係を維持するために努力していかねばならないと思った次第です。

（臨床検査科長 武本 重毅）



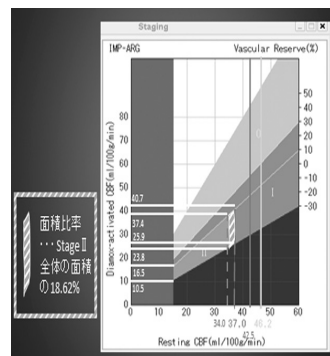
August 8, 2014 (Fri) 18:00 start  
 ・場所：国立病院機構熊本医療センター  
 地域医療研修センターホール  
 （臨床研修に立派形式の意見交換会を予定しております）  
 ・連絡先：国立病院機構熊本医療センター  
 地域医療研修センター事務局  
 TEL 096-353-4501(代表)内線2600 096-353-3513(直通)

院内見学の様子



# 高倉主任技師が核医学技術学会九州地方会大会賞を受賞

平成26年7月5、6日に長崎大学医学部の良順会館におきまして、第28回日本核医学技術学会九州地方会学術大会が行われました。その学会で演題20題の中から会員の投票により、大会賞に選ばれました。核医学が盛んな病院や最新装置がある大学病院からの発表もあり、私を受賞するとは夢にも思いませんでした。演題名は、「脳血流IMP-RAMDA法におけるSEE JETの閾値変更と収集時間による定量値について」です。発表ですが、脳血流負荷検査において当院の実情に合う閾値を設定することにより、精度が良くなったこと、短い検査時間でも、検査結果に影響が出ないという内容です。これらの事は、最終的には患者様のためになります。受賞したことに甘んじることなく、日々の仕事に従事していくなかで、常に何か改善できないか考え、それを解決することで患者様の役に立ち、その成



閾値変更後におけるSEE JET

果を研究発表できればと考えております。また、核医学専門技師として、信頼あるデータを提出できるよう努めていきたいと思っております。最後に、受賞にあたり関係する皆様に感謝申し上げます。

（主任診療放射線技師 高倉 清悟）

## モニター会議が行なわれました

地域住民の皆さまから幅広く意見を聴取し、診療機能の充実を図ると共に、地域に密着した病院として、良質な医療の推進を図ることを目的とする「モニター会議」を8月6日（水）に開催しました。

モニター委員として、一新校区自治協議会長の毛利秀士様、一新校区民生委員児童委員の山内優子様、新町青年団（新風連）副会長の宮本茂史様、一新校区第10町内自治会長の藤原謙吾様、西山中学校PTA副会長の橋本弥生様、一新校区第1町内自治会長の福住いさ子様の計6名の皆さまにご参加頂きました。

会議では、「市民公開講座の参加者が増えたのは嬉しい。町内会へ広報を徹底するため掲示するポスター枚数を増やしてほしい。翌月分のお知らせを全隣保班に配付するので必要部数届けてほしい」など嬉しいご提案をいただきました。また、市民公開講座に思春期の子どもやその親御さまを対象にした講座を入れてほしいとのご要望もいただきました。このご意見に対しては、出前講座を申し込んでいただければ、30分単位でも医師や臨床心理士を派遣するなど柔軟な対応が可能であることを説明させて頂きました。また、テレビカードの料金が高いという入院患者様のご意見がある



モニター会議の様子

ことをお伝えいただきました。テレビカードの料金につきましては、10月の契約変更を機に下がることが決定していることをご説明致しました。また、当院附属看護学校の学生に精霊流しや地蔵祭りに参加してもらってありがたいといった感謝のお言葉もいただきました。その他、活発なご意見をいただき、有意義な会議となりました。これからも地域住民の皆さまのご意見等を参考にさせて頂きながら、地域に密着した病院となるよう努力していく所存でございます。今後ともよろしくお願い致します。（管理課長 清水 就人）

## 「新町地蔵祭り」に参加しました

7月19日「新町地蔵祭り（段山）」、7月24日「新町地蔵祭り（明八橋）」に看護学校の1、2年生がボランティアとして参加しました。

段山の地蔵祭りでは、地域の商店街が出される出店（かき氷や焼き鳥など）での販売や、交通整理などを行いました。家族づれや子どもたちと関わる中、販売や交通整理を通して、自分たちの昔を思い出すとともに、地蔵まつりを楽しむことができました。

明八橋の地蔵祭りでは、毎年恒例の「よさこい踊り」に加えて今年度は「ソーラン節」を披露しました。学生は、会場で祭りを楽しんでおられる方々に対して、より良い踊りを披露しようと、オリジナルの振り付けを考え、放課後に練習を重ねてきました。当日は、地



地蔵祭り（明八橋）で披露した踊りの様子

域の方々や高橋副学校長や片渕副院長、佐伯看護部長を始めとする病院関係者が見守る中、音響がうまく流れないというハプニングがありましたが、学生は、「音がうまく流れないことが、かえって緊張がほぐれた」といい、かえって堂々とした踊りを披露することができました。

看護学校教員も、地域の方々と一緒に学生の踊りを見学する中で、地域の方々から「年々踊りも化粧も上手くなるね」という言葉を聞くことができ、うれしく思うとともに、来年度の参加も楽しみにしたいと思います。（看護学校 大道 真理）



看護学校1年生も販売を頑張っています。



抽選券の販売をしています。1等は黒川温泉でした。

## 最近のトピックス

### MRIを用いた非造影灌流画像



放射線科医長

浅尾 千秋

脳血流の臨床評価としてはSPECTを用いた核医学検査が最も多く普及しており、再現性や臨床有用性においてもすでに一般的な合意が得られています。MRIを用いた脳血流の評価も可能となってきています。MRIでは灌流強調画像として、造影剤を用いたdynamic susceptibility contrast (DSC) 法と血流にパルスを信号で与えて流入する血液の信号を取得するarterial spin labeling (ASL) 法があります。

急性期脳虚血疾患においては、造影剤を用いないASL法は緊急検査においても利用し易く、当院でもルーチンに追加して行うことがあります。定量的な指標も取得できるようになるとischemic penumbraの正

確な把握にも利用する可能性があります。

またASL法は脳腫瘍の評価にも有用です。当院の症例を提示します。T2強調像(図1)では右基底核領域の腫瘍と周囲の浮腫があります。ASL法(図2)では右基底核領域の腫瘍に高い灌流を認め、周囲の浮腫の灌流は低くなっています。造影MRI(図3)ではASL法の高灌流部に一致して染まりが認められます。このようにASL法では造影剤を使用することなく非侵襲的に腫瘍の血流の多寡を評価することが可能であり、悪性度の評価や組織型の鑑別に有用な指標となる可能性が示唆されています。

3テスラ装置では信号/ノイズ比の向上とT1延長によるラベル持続時間の延長によって、ASL法の画質の向上が期待されます。ASL法では血液脳関門を通過するトレーサーの特徴を生かして、コンパートメントモデルに基づく定量計算が可能で、臨床装置でも定量マップを作成することが可能になりつつあります。印加効率や血液の水濃度は標準値を仮定して使用するため定量結果は目安にとどめるべきとされますが、近い将来、当院の3テスラ装置でも非造影のASL法にて定量評価が行えるようになりそうです。

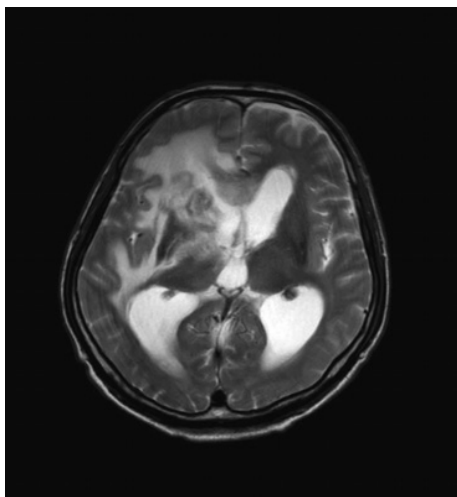


図1) T2強調像

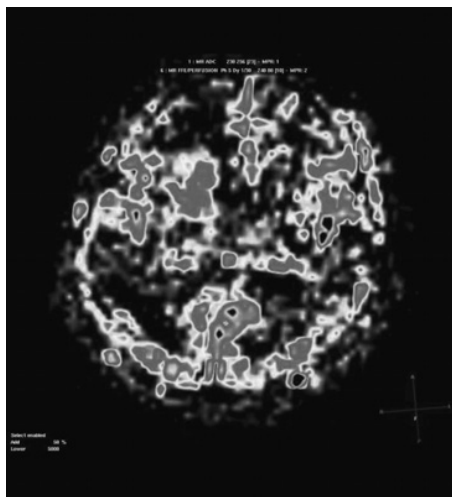


図2) ASL法

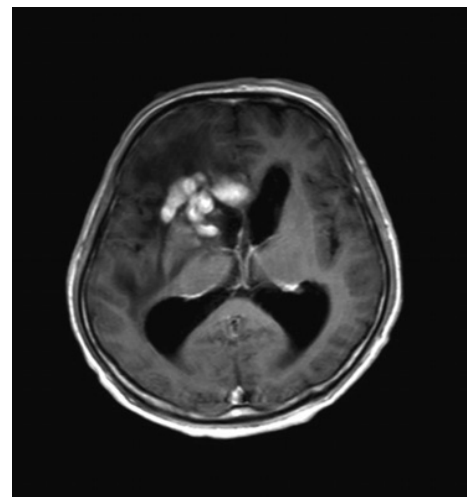


図3) 造影MRI



いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ88回

## 持続的血液浄化療法の持続緩除式血液濾過器の選択の検討

臨床工学技師 佐藤 朋哉

急性期医療における持続緩除式血液透析濾過療法（以下CHDF）の役割は必要不可欠になり、当院では年間約250件CHDFを施行しています。持続緩除式血液濾過器（以下ヘモフィルタ）はCHDFの条件下における吸着・濾過の性能が大きく異なることが報告されているため、臨床上ヘモフィルタを使い分ける必要があります。またCHDFは重篤な状態の患者に施行されていることから、低血流量で体外循環を行うために性能の経時劣化や血液凝固を起こしにくい膜素材であること、期待する血液浄化効率を得られるヘモフィルタが望まれます。当院では除水・溶質除去目的にPS膜とCTA膜、病因関連物質の吸着目的にPMMA膜を選択しています。PS膜を第一選択とし、CTA膜は特別な基準を設けずに回路交換の際に選択していました。そこで今回は、PS膜・CTA膜の溶質除去能と連続使用時間を検証しました。

### 【検証期間】

2012年6月～10月までにPS膜とCTA膜を使用したCHDF 9症例

### 【方法】

ヘモフィルタの溶質除去能として、24時間後のクレアチニン濃度をヘモフィルタの入口側・出口側で測定し、クレアチニンクリアランスを算出しました。連続使用時間は72時間を目標とし、回路内圧の上昇による体外循環困難が予測される場合、もしくは体外循環不能となった場合は回路交換を行い、それまでの時間を連続使用時間としました。

### 【成績】

クレアチニンクリアランスの平均はPS膜が約13.4 ml/min、CTA膜が約13.5ml/minでした。（表1）連続使用時間はPS膜が平均49.7時間、CTA膜が平均61.2時間となり、CTA膜はPS膜と比較して11.5時間連続使用が可能でした。（表2）

（表1）

クレアチニンクリアランス(ml/min)					
	患者A	患者B	患者C	患者D	患者E
PS膜	13.4	13	13.2	13.6	13.8
CTA膜	13.4	13.6	13.6	13.7	13.3
	患者F	患者G	患者H	患者I	平均
PS膜	13.6	13.6	13.4	13.6	13.46667
CTA膜	13.3	13.8	13.5	13.6	13.53333

（表2）

連続使用時間平均					
	患者A	患者B	患者C	患者D	患者E
PS膜	41	62.25	9.5	73.5	71.5
CTA膜	70.5	63	63.2	72	70
	患者F	患者G	患者H	患者I	全体平均
PS膜	23	56	40.3	70.5	49.7
CTA膜	63.2	58	21	70	61.2

### 【考察】

PS膜とCTA膜のクレアチニンクリアランスにほとんど差は見られなかったため、小分子領域における溶質除去能は同等と考えられます。またCHDFは、長時間・低効率の治療のため、差がつきにくいことも影響していると考えられます。

CTA膜の連続使用時間が上昇したのは、CTA膜の方がPS膜よりも血小板凝集への影響が少なく抗血栓性に優れているためだと考えられます。今回の測定結果から、良好なlife-timeを得るには、設定条件の変更や抗凝固剤の変更以外でもヘモフィルタの選択により対応できることが示唆されました。

今後は中分子量域や除水を含めた比較をしていくことが課題として挙げられます。

## 研修医レポート

### 臨床研修医

えがしら こういち  
江頭 興一



こんにちは、研修医1年目の江頭興一と申します。長崎大学を卒業し、4月から熊本医療センターにて初期研修をさせて頂いています。優しく頼り甲斐のある先輩医師や医療スタッフ・同僚に囲まれて、日々楽しい研修生活を送ることができています。

研修は麻酔科からのスタートでした。麻酔科では、学生時代に深く立ち入ることがなかった麻酔の流れ、種類、適応、考え方などを学ぶことができました。オリエンテーションやゴールデンウィークのために実質1か月半の研修となり若干物足りなさもありますが、術前診察、着目すべきバイタルの変化、呼吸管理につ

いてなど重要なことを学ばせていただきました。また、気管挿管、静脈・動脈ルート確保、腰椎穿刺など多くの手技を行う機会にも恵まれました。初めは何をするにしても失敗ばかりで落ち込む日々を過ごしましたが、徐々にやり方・コツを身につけることができたのではと考えています。これも熱い先生方のご指導のおかげだと感謝しております。

現在は血液内科で研修を行っております。6月は各種オーダーの出し方、内服薬や点滴の管理、医療スタッフとの連携の取り方など、基本的な病棟業務を覚えることで精一杯でした。7月に入り、今はようやく患者さんと向き合って診療を進めることができているのではないかと考えています。血液内科の疾患は理解が難しく治療も非常に複雑で苦労しましたが、発熱に対する考え方、TPN、CV挿入、骨髄穿刺など多くの知識や手技を学ばせていただきました。

来月からは救命病棟、救急外来で研修を行っていきます。忙しい日々ですが、努力を忘れず成長していきたいと考えていますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

### 臨床研修医

おかがわ しょうた  
岡川 章太



こんにちは。研修医1年目の岡川章太と申します。熊本大学医学部を卒業後、4月より熊本医療センターにて研修させて頂いております。生まれ育った熊本で、医師としての第一歩を踏み出すことができ嬉しく思うと同時に、医師として働く責任を日々感じながら充実した研修生活を送っています。

私は、最初の2か月間を神経内科で研修させて頂きました。指導医の先生に懇切丁寧に指導していただき、身体診察を行い責任病巣を考えながら鑑別診断を挙げ、必要な検査計画を立てて治療を進めていくという一連の診療の流れを学びました。診療業務に慣れ

るにつれ、症例や疾患について深く考える時間も増えていきました。病棟スタッフとの連携や患者さんとの接し方についても見習いながら、医師として必要不可欠なコミュニケーション能力を身につけることができましたと思います。

次の2か月は腎臓内科で研修させて頂きました。血液検査や尿検査の結果から腎機能を評価し、腎疾患の診断・治療計画について考えることができました。また、透析カテーテル挿入やシャント作成術、PTAなどの手技も数多く経験させて頂きました。

これから2年間、様々な診療科での研修と救急外来での当直を通じて多くの経験を積み、豊富な知識と優れた技術を持った、思いやりあふれる心あたったかい医師になれるよう、日々精進していきたいと思っています。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

# 研修のご案内

## 第84回 特別講演（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成26年9月3日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長 片渕 茂  
 「消化器外科治療の最前線」 熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学教授 馬場 秀夫 先生  
 〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

## 第188回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成26年9月8日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝  
 2. 症例検討「マムシ咬傷による難治性腹水」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 市川 亮  
 3. ミニレクチャー「神経内科トピックス」 国立病院機構熊本医療センター神経内科 加藤 勇樹  
 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第156回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成26年9月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「1型糖尿病のインスリン量調節にCGMを用いた一例」  
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科  
 本田知恵子、宇野克明、堀尾香織、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至  
 2. 「低血糖により判明した下垂体機能低下症の一例」  
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科  
 堀尾香織、宇野克明、本田知恵子、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至  
 なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5796

## 第135回 救急症例検討会（特別講演）

日時▶平成平成26年9月24日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長 高橋 毅  
 テーマ「岩手県の救急医療体制について」 岩手医科大学医学部救急医学講座教授 遠藤 重厚 先生  
 医師、薬剤師、看護師、技師、救急隊員、事務職等全職種が参加できます。多数のご参加を歓迎します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 第29回 シンポジウム

〔日本医師会生涯教育講座2単位認定〕

日時▶平成26年9月26日(金)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：山鹿中央病院 理事長 水足 秀一郎 先生  
 「医療の将来—地域医療ビジョン」  
 1. 診療所の立場から 春日クリニック 理事長 清田 武俊 先生  
 2. 医師会及び医療法人の立場から 青磁野リハビリテーション病院 理事長 金澤 知徳 先生  
 3. 急性期病院の立場から 国立病院機構熊本医療センター 統括診療部長 清川 哲志  
 4. 行政（県）の立場から 熊本県健康福祉部健康局医療政策課 課長 立川 優 先生

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 第44回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成26年9月27日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：悠紀会病院 院長 紫藤 忠博 先生  
 演題：「白血球増多症の鑑別点と治療」  
 1. 白血球増多症の鑑別 熊本大学医学部附属病院血液内科助教 岩永 栄作 先生  
 2. 骨髄増殖性疾患について 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 河北 敏郎  
 3. 慢性骨髄性白血病の診断と治療 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高 道弘  
 この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局  
 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

# 2014年 研修日程表 9月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

9月	研修センターホール	研修室
1日(月)		
2日(火)		
3日(水)	19:00~20:30 第84回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「消化器外科治療の最前線」 熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学教授 馬場 秀夫	
4日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー	
5日(金)	18:30~20:30 血液研究班月例会	
6日(土)		
7日(日)		
8日(月)	19:00~20:30 第188回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
9日(火)	18:00~19:30 第88回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)	
10日(水)		
11日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床検査技師会一般検査研究班月例会	
12日(金)		
13日(土)		
14日(日)		
15日(月)		
16日(火)	19:30~20:30 第35回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「院内摂食・嚥下障害に対応するシステム報告」 1. 急性期 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健 2. 回復期 熊本機能病院摂食・嚥下認定看護師 月足亜佐美 3. 維持期 くまもと温石病院歯科医師 川上 剛司 4. 老健施設 介護老人保健施設サンライズヒル言語聴覚士 大崎 功二	
17日(水)		
18日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 14:00~15:00 第18回 市民公開講座 「CKD(慢性腎臓病)」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田 正郎	19:00~20:45 第156回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
19日(金)		
20日(土)	14:00~16:00 第256回 滅菌消毒法講座 「感染対策の最近の話題」	
21日(日)		
22日(月)		
23日(火)		
24日(水)	18:30~20:00 第135回 救急症例検討会・特別講演 「岩手県の救急医療体制について」 岩手医科大学医学部救急医学講座教授 遠藤 重厚	
25日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会 <細胞診月例会・症例検討会>	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
26日(金)	19:00~21:00 第29回 シンポジウム [日本医師会生涯教育講座2単位認定] 座長 山鹿中央病院 理事長 水足秀一郎 「医療の将来-地域医療ビジョン」 1. 診療所の立場から 春日クリニック 理事長 清田 武俊 2. 医師会及び医療法人の立場から 青磁野リハビリテーション病院理事長 金澤 知徳 3. 急性期病棟の立場から 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 4. 行政(県)の立場から 熊本県健康福祉部健康局医療政策課 課長 立川 優	
27日(土)	15:00~17:30 第44回 症状・疾患別シリーズ 「白血球増多症の鑑別点と治療」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 悠紀会病院 院長 紫藤 忠博 1. 白血球増多症の鑑別 熊本大学医学部附属病院血液内科助教 岩永 栄作 2. 骨髄増殖性疾患について 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 河北 敏郎 3. 慢性骨髄性白血病の診断と治療 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高 道弘	
28日(日)		
29日(月)		
30日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)